―特集―　受け継がれる伝統

『深山和紙』

ら技術と品質において高い評価を得ていた深山和紙は、「上り紙」として江戸まで届けられたという記録が残っています。昭和53年には山形県無形文化財に指定されました。

戦前までは障子紙や帳簿用紙など人々の生活に深く関りのあった深山和紙ですが、生活環境の変化によりそれらの需要が激減。近年では工芸、書画、卒業証書、便箋、名刺などに使用されています。

戦後の急激な技術革新、時代の変化を受けてもなお、昔ながらの技法で守り続けられた深山和紙は、まさに努力と手技の賜物です。

四百年もの間、絶えることなくこの地に受け継がれてきた深山和紙。和紙に触れたときに感じるその素朴さと温かさは、まさにこの地で暮らす人々の人情そのもの―。

『深山（みやま）の紙は、
化粧を知らない村娘
のように素朴で温かい。』

―詩人・真壁仁の言葉

最上川の支流、実渕（さねぶち）川流域にある深山地区。この地の歴史は古く、国指定重要文化財の「観音寺観音堂（深山観音）」など歴史的価値が非常に高いものが多く存在します。

約四百年前の江戸時代初期からこの地に代々伝わるのが「深山和紙」です。上杉鷹山公の時代には、殖産興業施策で紙漉（す）きが推奨され、当時か